



フジツボ化石を発見しました。

穂別富内地域の新生代新第三紀中新世の地層を調査していた際に、二枚貝・フジツボ化石などを産する新産地を発見しました。

フジツボは現在も生息しているため、絶滅した古生物・化石に興味を持っている多くの研究者・コレクターから注目されていません。またフジツボ化石は、殻がいくつかのパーツに分かれた“バラバラ死体”として見つかることが多く（写真左下）、種類がわかりにくく見逃されている例も多いかもしれません。

今回、見つかった穂別地域の新産地では、分離したフジツボのパーツ（写真左下）とともに、バラバラになる前のパーツが連結した標本（写真上）も産するので、種の鑑定を行うことが十分可能です。これまでに北海道では、いくつかのフジツボ化石が報告されていますが、中新世（約 2300 ～ 500 万年前）では種類まで特定された例がなく、穂別地域のフジツボ化石は、北海道や日本全域のフジツボ類の歴史を考える上で貴重なデータとなります。

世界に数人しかいないフジツボ化石研究者の一人でおられる野村真一博士（千葉県立天羽高等学校）に今回の発見について連絡をとり、共同研究を始めました。野村博士には 8/11-13 に穂別に来ていただいて試料の採集・データの収集を行っていただきました。これらの研究成果がまとまり次第、発表していきます。今回発見した標本をミニ展示「新発見 穂別産フジツボ化石」として 10 月 8 日から一時的に展示します。

（スケールはすべて 1cm）



黒いものがフジツボ化石



カキ（二枚貝）に付着するフジツボ化石



パーツが分離しているフジツボ化石



サンプリングされる野村博士

ミニ展示 「新発見 穂別産フジツボ化石」

期間 2011 年 10 月 8 日 (土) ~ 2012 年 4 月 15 日 (日) 場所 博物館入口ホール

展示協力 野村真一 (千葉県立天羽高等学校)

フジツボについて

フジツボ亜目はエビ・カニを含む甲殻綱に属し、石灰質の殻を持ち、付着生活を行うグループの一部を指します。エビやカニの肢 (あし) に相当する部分は、殻の中にあり、主にえさを採るために用いられています。

フジツボの殻は、富士山状の形状をしている周殻 (しゅうかく) とその内部の蓋板 (がいばん) から成ります。蓋板は 4 枚のパーツから構成されています。周殻は種類によって異なりますが、1 ~ 8 枚のパーツから構成されています。

化石として保存されるのは、硬組織であることが圧倒的に多く、フジツボの場合は石灰質の殻である周殻と蓋板にあたります。フジツボの種類を決定する際には、各パーツの表・ウラを見なければならぬことが多いため、化石の場合は種類を決定する作業がとても難しいことが知られています。



現生のチシマフジツボ

Semibalanus cariosus

鵜川汐見海岸産

(スケールは右と同じ)



左の標本を分離したもの

内側の 4 枚が蓋板で外側の 6 枚が周殻

(文責: 普及員 西村智弘 監修: 野村真一)

【公共交通機関による来館案内】 (バス停「穂別中央」→博物館は徒歩約 10 分)

往路 (札幌・苫小牧方面▶博物館)

- ・新千歳空港 10:40 ①▶穂別中央 12:03
- ・札幌駅 8:10 ②▶むかわ四季の館 9:30 -(乗換)- むかわ四季の館 9:41 ④▶穂別中央 10:45
- ・苫小牧駅 8:03 ③▶鵜川駅 8:32 -(乗換)- 鵜川駅前 9:39 ④▶穂別中央 10:45

帰路 (博物館▶札幌・苫小牧方面)

- ・穂別中央 16:17 ①▶新千歳空港 17:40
- ・穂別中央 15:40 ④▶鵜川駅前 16:45 -(乗換)- 鵜川駅 17:25 ③▶苫小牧駅 17:54

①道南バス 新千歳空港直行便 (1,830 円) 前日の 16 時までに予約 (0145-45-2284)

②道南バス 高速ペガサス号 (2,340 円) 事前予約 (0146-42-1231)

③ JR 日高本線 (620 円)

④道南バス 穂別鵜川線 (200 円)

※各料金は大人 1 人分

休館日

2011 年 10 月

3(月) 11(火)

12(水) 17(月)

24(月) 31(月)

2011 年 11 月

4(金) 7(月)

14(月) 21(月)

24(木) 28(月)